

令和5年度 第1回燕市食物アレルギー対応委員会 会議録（要旨）

日 時：令和5年7月12日（水） 15時25分から16時30分まで

場 所：燕市役所 会議室301

出席委員：松野委員、伊東委員、村澤委員（委員長）、青木委員、今井委員、小嶋委員、小池委員、落合委員

事務局：教育長、教育次長、主幹、学校教育課長、こども政策部長、こども未来課長、他職員11人

議 題：（1）令和4年度第2回食物アレルギー対応委員会でのご意見について
（2）小・中学校における食物アレルギー対応の現状について
（3）児童クラブにおける食物アレルギー対応の現状について
（4）幼稚園・保育園・こども園における食物アレルギー対応の現状について
（5）その他

【以下、会議録（要旨）】 ※個人の診療、対応についての記録は省略します。

開 会

教育長挨拶

委員長挨拶

議 題

（1）令和4年度第2回食物アレルギー対応委員会でのご意見について

《事務局説明》

令和4年度第2回の本委員会において、「食物経口負荷試験ができる医療機関をお知らせするとよい」という意見があった。

これを受け、学校教育課・こども未来課では、保護者に対して生活管理指導表の提出を求める文書に、「燕市医師会医療機関名簿」及び「日本アレルギー学会専門医・指導医の『新潟県』の検索結果一覧」の二次元コードを記載し、情報提供をする予定である。

（2）小・中学校における食物アレルギー対応について

《事務局》

① 各小・中学校における食物アレルギー対応給食の児童生徒数

令和元年度から令和5年度までの、アレルギー対応給食の児童生徒数の報告をした。

② エピペン処方者の人数

令和元年度から令和5年度までの、エピペン®を処方されている児童生徒数の報告をした。

③ 令和5年度学年別食物アレルギー対応給食児童生徒数

学年別、アレルゲン別の児童生徒数を報告した。

④ 食物アレルギーに係る誤食等の発生について

令和5年1月1日から令和5年5月31日までの間、食物アレルギーに関連した

事故はなかったことを報告した。

- ⑤ 食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者との情報交換会について
6月21日に開催した情報交換会について説明した。
- ⑥ 食物アレルギー対応に係る職員研修
7月5日に開催した研修会について説明した。

○伊東委員

情報交換会は、広報で開催を周知しているか。

○事務局

給食で食物アレルギー対応をしている児童生徒に渡している対応給食に関する資料に同封して周知した。

○松野委員

新規に発症した人や、食物アレルギーか疑わしい人へもチラシなどで案内する形もいいのではないか。

(3) 児童クラブにおける食物アレルギー対応について

《事務局》

- ① 各児童クラブの食物アレルギー対応の児童数
令和元年度から令和5年度までの、アレルギー対応をしている児童数の報告をした。
- ② エピペン®処方者の人数
令和元年度から令和5年度までの、エピペン®を処方されている児童数の報告をした。
- ③ 食物アレルギーに係る誤食等の発生について
令和5年1月1日から令和5年5月31日までの間、食物アレルギーに関連した誤食はなかったことを報告した。
食物アレルギーが疑われ、服薬をした事例1件を報告した。
- ④ 食物アレルギー事故を防止するための対応
7月4日に開催した食物アレルギー研修会について説明した。
エピペン®の使用方法に関する職場内研修を実施したこと、今後救急救命講習会を実施する予定であることを報告した。
- ⑥ おやつ提供に係る食物アレルギー対応マニュアルの改訂について
令和5年4月の組織改正により、課名を「子育て支援課」から「学校教育課」に変更したことを報告した。

(4) 幼稚園・保育園・こども園における食物アレルギー対応について

《事務局》

- ① 各園の食物アレルギー対応給食の園児数
令和元年度から令和5年度までの、アレルギー対応給食の園児数の報告をした。
- ② エピペン®処方者の人数
令和元年度から令和5年度までの、エピペン®を処方されている園児数の報告をした。
- ③ 令和5年度クラス別食物アレルギー対応給食園児数
年齢別、アレルゲン別の対応園児数を報告した。
- ④ 食物アレルギーに係る誤食等の発生について
令和5年1月1日から令和5年5月31日までの間、食物アレルギーに関連した誤食はなかったことを報告した。
家庭から持ってきた弁当にアレルギー原因食物が含まれていた事例1件について報告した。
- ⑤ 食物アレルギー対応に係る職員研修
9月13日に開催予定であることを報告した。
- ⑥ 給食提供に係る食物アレルギー対応マニュアルの改訂について
令和5年4月の組織改正により、部名及び課名を「教育委員会 子育て支援課」から「こども政策部 こども未来課」に変更したことを報告した。

(5) その他

○落合委員

市内の保護者から相談があった事例。食物アレルギーで市内の小児科を受診している未就園児に、ある日強い症状が出て、救急車を要請したところ、アレルギー専門医のいない市外の病院に搬送された。

アレルギー専門医のいる県立吉田病院に搬送するとか、開業医も含めてそういう対応はしていただけないものか。

○松野委員

通常であれば県立吉田病院に搬送して構わない。県立吉田病院のカルテがあるとよい。

○青木委員

救急隊に、県立吉田病院がかかりつけでアレルギーをもっているお子さんに関しては、県立吉田病院が対応してくれる旨を周知する。

○伊東委員

開業医は、症状が重篤であると救急搬送への対応は無理がある。マンパワーのある大きい病院の方が対応しやすい。

○松野委員

食物アレルギーは研究が進んできている。医師の間で勉強会や研修会をやりながら、連携を取って、少しでも診療レベルを上げていかなければならない。

○今井委員

学校では養護教諭の世代交代が進み、若手がたくさん入ってきている。一方、燕市内にはベテランもいるので、若手も自信をもってやれるよう研修・連絡など支え合っている。食物アレルギーに関しては、今回は事故の報告もなく、いいシステムになってきたと感じている。

○小嶋委員

燕市はシステムがきちんとしていていると思っている。給食センターとしても学校との連携、行政との連絡や相談等、日々緊張感をもってやっている。

献立作成の際に悩んだことがあるのでお聞きしたい。燕市ではあまり食べない種類の魚を出そうかと考えたことがあるが、アレルギーの心配があるのではないかと悩み、提供をやめたことがあった。

初めて食べる食材に対するアレルギーの出現のリスクは考慮した方が良いのか、珍しい食材の提供について、アドバイスをいただきたい。

○松野委員

今まで食べた事がなく、これが好きではないという感覚になれば、アレルギーでなくても喉の違和感があったり、唇がかゆいと言ったりすることもある。食物アレルギーは食べてみないと分からない。初めて食べる物でも、ほとんど問題ない場合が多いと考えてもらえればよい。

○小嶋委員

給食だよりでは、新年度に、「給食だよりを見て、初めて食べる食材があれば、家庭で食べさせてください」という一文を入れるが、そういったことで対応していきたい。

○小池委員

保育園では、土曜日に家庭から持ってきたお弁当の中にアレルゲンが含まれていた事例があった。拠点の園では、名簿に色分けするなど、アレルギーが分かるように対策している。今後も、園長会で対策を確認していきたい。

閉 会